

ローマ人への手紙:「救い」という王冠の宝石
28- では何故今でも罪との戦いがあるのですか？

ローマ人への手紙 7:14-25

Grace Fellowship Church / Pastor Brad Bigney / March 23, 2014

罪との戦いにおいて心に留めておくべき二つの警告

- I. 戦いは終わったのだと思い違いをしてはいけません。
- A. あなたにはまだこれからも罪との戦いがあります。— イエス様の再臨かあなたの死か、どちらかが先に来るまでは。

ここまで「ローマ人への手紙」を学んできたところで、普通の信仰生活の姿がはっきりと見えてきます。

6章には、信者は罪に支配されてはいないとありますが、7章は、まだ信者が罪から完全に解放されているわけではないと示しています。

6章には、もはや罪が私たちの人生を支配することはないとありますが、7章は、まだ私たちの人生の中に残存する罪とこれからも戦い続けることを示しています。

6章には、もはや罪が私たちの生活の特徴となることはないとありますが、7章は、今でも罪が信者の生活の中に潜み続けることを示しています。

キリスト者は不信者と同じではありません。不信者は罪に安住していますが、私たちは罪との戦いにあります。私たちの特徴は聖い願いを持つことですが、いまだに古い欲との戦いの中にあります。

パウロはローマ6章で、恵みに圧倒されているのと同じほどに、彼の人生に残存する罪との戦いにも圧倒されています。不信者は、パウロがこの箇所描いているように罪に引き裂かれることはありません！

v. 15 …私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。

v. 18-19 ¹⁸私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。¹⁹私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。 *NIV & ESV 'keep on doing' 「し続けている」*

パウロが気付いている原則は、彼は二つの性質を持った人間だということです。一つは神の律法と神のことについて歓喜しますが、もう一つはそれらに対して戦いをいどみます。間違えないように！キリスト者の誰もが、私たちの内で同時に働く二つの競い合う力を持って生きているのです。なので、私たちは対立状態の中に生きています。南北戦争です。

v. 20-21 ²⁰もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行なっているのは、もはや私ではなくて、私のうちに 住む罪です。²¹ そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。

NIV 「私がよいことをしたいと願うとき、悪も私とともにそこにいるのです。」

v. 23 私のからだの中には異なった律法があつて、それが私の 心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の 律法のとりこにしているのを見いだすのです。

ガラテヤ 5:17 なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。

これはパウロの霊的な自伝です。しかしまた、キリスト者の誰もが体験することです。キリストに真剣に従ってきた人は誰でも、ローマ7章 14～25 節にあるこの苦闘をある程度は知っています。これは現実です！

B. これを言い訳として、戦いを捨て、罪に安住しないでください。

苦闘しながらも罪と戦うのと、失敗して苦悶の末に放棄するのには大きな違いがあります。この箇所でも語られているキリスト者についての事実は、このまま安住して、受け入れ、この世の生活と敗北者のメンタリティに流されて生きることを意味しているのではありません。

私たちは、自分の罪に安住すべきではありません。罪に対して戦うべきなのです。

罪に対して勝利することに失敗した瞬間や時には、ローマ7章14～25節は健全なキリスト者が応答すべき普通の方法なのです。

ローマ7章がとても重要な理由の一つは、完璧主義から来る絶望感から人々を救うための、現実在即した意味合いを持っていることです。

神の標準を全て拒否し、やりたい放題罪を犯すのだと言うことから来る絶望感があり、完璧に標準を満たそうとし、現実の生活の中で、真の信者が罪を犯すことは許されないという意識から来る絶望感があります。

この箇所におけるパウロの教えは、このような二種類の絶望感という、惑わされやすい流れの中を、私たちが通って行くときの道案内として助けてくれます。私たちはみな、そういう流れの中で生きています。

私たちの落ち入りやすい二つの溝があります。

一つはあなたの罪に安住して戦いをやめてしまうこと。

もう一つは、ある高台に到着したかのようなふりをして、ある「領域」に入ったから、もう罪を犯すことはないと思ってしまうこと。ローマ7：14～25は、この二つとも、今あなたがキリストにあってどんな者なのかについての間違った理解なのだを示しています。

II. 気を落とさないように！

ローマ 7:24-25 ²⁴ 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。²⁵ 私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。

最も肝心なことは、自分自身の力では、罪と戦って勝利しようとしても、結局無力なのだということです！

キリスト者になるための三つのステップーローマ7：24～25

1. 「私は、ほんとうにみじめな人間です！」
2. 「だれが私を救い出してくれるのでしょうか？」
3. 「神に感謝します。私たちの主イエス・キリストのゆえに」

これが福音です：イエス・キリストはこの世に来られ、あなたには決してできないことを成してくださいました。キリストがこの世で生き、十字架上で死に、死からよみがえられたことについて、聖書はキリストが単に模範を示すためにしたのではなく、私たちのためにしてくださったのだと言っています。

第二コリント 5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに 罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。

ここに最高に素晴らしい取り換えがあります。イエス様が私たちの罪を負ってくださり、私たちがイエス様の義を得るのです！